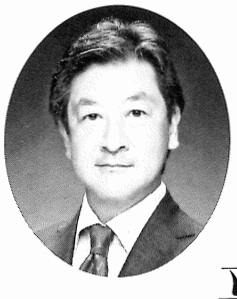
出版クラブだより
出版クラブ会報
No.621

主な記事

▽2024年　新年名刺交換会団体代表ご挨拶……一～五
野間　省伸・小野寺　優・堀内　丸惠・近藤　敏貴・矢幡　秀治
▽新春紙上名刺交換……六～十九
▽〈出版歳時記〉出版社に書店を！……二十

立場の違いを乗り越え 親和の精神で進んでいく



日本出版クラブ会長　野間　省伸（のま・よしのぶ）

あけましておめでとうございます。

おかげさまで出版クラブは神保町に移転して6年目を迎えました。出版の出発点はこれまで世の中になかったものを新しく創り出すことにあると思います。そのためには、多くの人々がコミュニケーションをとりながら、お互いが刺激しあい、アイデア・企画を磨き上げていくことが何より大切なことだと考えます。そうした出会いの場を提供することこそが出版クラブの最大のミッションです。

さて、昨年の第62回全出版人大会では、400人の方々にお集まりいただき、4年ぶりに懇親会を開くことができました。やはりフェイストゥフェイスで話をすることが出版人の基本だと痛感した次第です。

大会委員長は集英社社長の廣野眞一様にお願いし、「精神の自由」の重要性を謳った大会声明をいただき、姜尚中氏の記念講演では「アジアを生きる」ことの意義を語っていただきました。

また第55回出版功労者顕彰会をこちらも4年ぶりに箱根の出版平和堂で開催し、11名の功労者のお名前を加えることができました。出版平和堂では記銘板を設置するスペースが少なくなってきています。そのため増設工事も行いました。

こうしたイベントに加え、出版クラブビル3階ロビーに無料で飲めるコーヒーマシンを設置し、簡単な打ち合わせができる椅子とテーブルも配置しました。維持員のみなさまが気軽に集まれる場＝クラブとしてよりいっそうの充実を図っていく所存です。

開館以来、クラブライブラリーで開いてきた「小さな本の展覧会」では、秋に書籍協会と共催で〝ジェンダー〟をテーマにした展示を行いました。出版業界にとっても、ジェンダーの視点は今後ますます欠かせないものになるでしょう。

今年の全出版人大会は5月7日に開催します。大会委員長を筑摩書房社長の喜入冬子様にお願いしました。女性の大会委員長は、野間佐和子前出版クラブ会長以来、約25年ぶりになります。もっともっと女性が活躍できる出版界になることを願っています。

全国の矯正施設や首都圏・関西圏の児童福祉施設に図書を寄贈する「読書のめぐみ運動」は一昨年70回目を迎えました。その活動に対して、法務大臣から矯正施設への本の寄贈についての感謝状をいただきました。また、児童福祉施設への寄贈に対しては、多くの行政機関のトップから表彰状を頂いております。

矯正施設の入所者から「生まれて初めて本にちゃんと向き合うことができました。ありがとうございます」という言葉をいただきました。〝本の力〟を信じてこれからも活動を続けていきたいと思います。

2023年度上期4月～9月の会館の営業状況は、新型コロナ感染症が5類に移行になり、会議・宴会の利用者数が対前年比175％、事業収入が194％と順調に回復しています。事業収支はわずかではありますが、黒字となりました。今後ますますのご利用をお願いいたします。

出版業界は、今年4月に物流費の値上がりや輸送距離が制限される「2024年問題」に直面することとなります。また全国の市区町村のうち4分の1以上に書店がない状況も看過できない深刻な問題です。円安による原材料費の高騰や人件費の上昇により、これまでの定価設定では出版物をこれまで通り刊行するのが難しくなっています。作った本が読者に届くということが、今や困難になっている状況です。

この難局を、出版クラブの創立の理念である「出版界の総親和」という精神に立ち、みなで力を合わせて打破していこうではありませんか。

世界各地で戦争や紛争が起きています。世界は「分断の時代」に入ったと言われています。そんな時代だからこそ、出版界は立場の違いを乗り越えて親和の精神で進んでいきたいと思います。

本年も何卒よろしくお願いいたします。（講談社社長）

新春紙上名刺交換

＝ 2024年　年頭所感 ― 出版人の声 ＝

ノンフィクションに感動

青木　康晋

「朝日」を離れて1年半、いま週3日がGakken顧問、週2日が福島県いわき市の東日本国際大特任教授という生活です。このトシ（64歳）で声がかかるのはうれしい。新しい職場で初めての経験をするのも悪くない。いわきといえば、大宅賞や講談社本田靖春ノンフィクション賞を受賞した伊澤理江さん『黒い海　船は突然、深海へ消えた』（講談社）はここが舞台の作品で、感銘を受けました。

（Gakken顧問、前朝日新聞出版社長）

人間は何処で欲望と決別できるか

志村　孚城

人類の発展の源は「欲望」であると言われている。果てしない探求欲は人類を月へと運んだが、征服欲は戦火を引き起こし、互いの煩悩により人類滅亡の道に進み出しているように見える。しかし、人類は「知」の発達をもって「欲望」と対抗してきた。哲学や宗教などであるが、現在その役割を果たすものが欠けている。ここで、「知」の発達を支えてきたのは紙と文字の文化であると出版界は再認識し、人類の「知」の研鑽に力を貸して頂きたい。

（創生生体医工学研究所代表取締役）

図書館との新しい関係

鈴木　宣幸

2024年は、協議を重ねてきた図書館収蔵資料の図書館等公衆送信サービスがようやく本格始動する。改正著作権法で定められた「特定図書館」に国立国会図書館がなるためだ。出版社には、図書類の販売購入だけでなく、著作権者の補償金をやりとりする間柄になる。対価を払うこのサービスが調査研究に資することになって生まれる価値が、出版物として還元される、そんな近い将来を願ってやまない。

（日本雑誌協会専務理事）

板橋区

工藤　裕樹

新年明けまして、おめでとう御座います、本年もよろしく、御願い申し上げます。

昨年本社がある板橋区でグループ会社、株式会社工藤商店が、「いたばし人と未来を創る会社賞」を受賞致しました。板橋区は絵本の街をアピールしています。有名なのはイタリアボローニャ市立サラボルサ児童図書館との姉妹図書館があります。また板橋区は印刷、製本業が多く文化を支えてきました。今後も板橋区や文化に貢献致します。

（工藤出版サービス代表取締役）

紙メディアはどうなる？

岡崎　満義

なんでもスマホ、スマホ全盛時代になった。私はスマホは雑誌殺しの親玉だから、スマホは持たないことにしている。そんな妙な自己主張はやめて、スマホを持ったら世界観も変わりますよ、と、生命保険のおばさんに笑われている。私は40年、雑誌編集者として生活してきた。ありがたい「紙＝神サマ」時代であった。電車に乗っても、本を開いている人はなく、スマホをいじっている人ばかりだ。紙メディアはこれからどうなるか。

（元文藝春秋編集長）

出版広告が面白い

能勢　仁

朝の楽しみの一つに、朝刊の出版広告を見ることがある。最近様変りしたのが女性週刊誌の広告である。これまでは半五段広告の中に、縦組み、横組みが交錯していて目が回る出広であった。最近は縦か横に統一され見易くなった。三八つ広告も変化している。単品広告、複数広告あるが、新刊の味には変りはない。版元、書店、読者を繋ぐ紙面である。大事にしたい。新聞不読者が増えているが、新聞と出版広告は消えない。

（ノセ事務所代表取締役）

デジタルの時代

中井　泉

会議はウェブ形式になり、映画は配信サービスで見るようになった。一方、日本には外国人が溢れるようになった。高価な旅費を払ってでも、五感で感じたいのだ。2024年はますますデジタル化が進み、一方で実体のあるものに人はもっと付加価値を感じるようになるのではないか。デジタル本と印刷物は現在同じ価格で取引されているが、印刷物を貴重品として高い値付けをしても良いのではないか。

一読者としてそう思う。

（島津理化代表取締役社長）

外野席より

中濱　久

謹んで年頭の御祝詞を申し上げます。『出版クラブだより』毎号現役の皆様の御活躍や偉大な先達の足跡等楽しく拝し、また出版歳時記では、出版業界の〝今昔〟を御教示頂いております。昨年は出版クラブ創立七十周年をお迎えになり心よりお祝を申し上げます。出版が担う文化知識情報の伝達は重要な役割です。読書は読者に想像力・創造性・思索性の楽しみを与える文化です。文化の担手・出版界の御発展を心から外野席より祈念します。

（共同印刷元専務取締役）

年頭所感

川瀬　真

新年あけましておめでとうございます。

日本複製権センターは、新聞、雑誌等の複製権を集中的に管理し、企業、団体、官公庁等に利用の許諾を行っている中核的な管理事業者です。

コンテンツの流通促進は政府の重要な課題となっていますが、これを実現するためには集中管理制度の充実が欠かせません。この期待に応えられるようこれからも管理範囲の拡大等に努力し、利便性の向上を図っていきたいと思っています。

（日本複製権センター代表理事）

いつだって「過渡期」

巴　一寿

新年あけましておめでとうございます。

ビジネスシーンでよく聞く言葉。

でも過去もいつだって、どんな時でも「過渡期」。

そして、2024年も、もっと未来も、ずっと過渡期。

時代の流れを読み解き、時流に乗り、進化を遂げなければならないのだから。

だから、いつだって「過渡期」を自分ごとにしようと思った2024年の目覚めでした。

（光文社代表取締役社長）

巨人ファンに復帰します

小立　鉦彦

中田翔選手が巨人と契約解除になり、原監督も退団となった。2021年8月に当時の監督原が〝温情〟の下に暴行無期限出場停止中の中田を日ハムから獲得。原独断即実戦復帰。この経過に巨人ファンとしてあきれ果てる。原はほかにも既に旬を過ぎていた中島、炭谷を、まるで原チルドレンの如く入団させ起用。生え抜きの若手飛躍の芽を摘んでいる。その〝原人脈〟が誰もいなくなった今シーズン。また巨人ファンに復帰しよう。

（南江堂代表取締役会長）

シンギュラリティ

寺川　光男

「AIを使いこなせない人間がAIを使いこなせる人間の仕事を奪う」と言われています。ChatGPTを使ってみましたが想像以上のテクノロジー…。何を解決したいのか、問いを生み出す人間の役割は変わりません。一方、人間の脳と同じレベルが誕生する時点を表すシンギュラリティ。人類の知性と機械の知性が融合する事で人新世の厳しい現実を克服できるのでしょうか。テクノロジーとしっかりと向き合って歩みたいと思います。

（光和コンピューター代表取締役社長）

経営に役立つ書籍

戸羽　節文

新年明けましておめでとうございます。

企業が存続していくためには、顧客に品質の良い製品・サービスを提供し、その対価を得ていく必要があります。良い品質の製品・サービスを提供することは経営の目的であり、その方法論がTQMです。本年もみなさまの経営に役立つTQM関連書を数多く出版してまいります。みなさま方には、本年も一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（日科技連出版社代表取締役社長）

年頭の所感

森岡　憲司

謹んで新春のご祝詞を申し上げます。

新型コロナウイルスが第5類感染症に移行し、街に活気が戻っています。

多くの人々が本屋さんに行き本を読む世の中が実現できるように、中央社は今後共安定した商品供給を継続するとともに、お得意様のさらなる飛躍を期して、新しい挑戦に取り組んでまいります。

本年10月に中央社は創立75周年を迎えます。

引き続き何卒倍旧のご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

（中央社代表取締役社長）

出版業界の発展に貢献します

鐘ケ江　弘章

明けましておめでとうございます。

目まぐるしいスピードで情報技術は進化していきますが、しっかりとその本質を見据えながら、「出版広告」「出版システム開発」の分野で業界の発展に貢献する仕事ができるよう本年も努めて参ります。

みなさま、何卒よろしくお願い申し上げます。

（とうこう・あい代表取締役社長）

REBORNの次を目指して

川上　浩明

いま弊社では2024年4月以降の中期経営計画を煮詰めています。管理職や若手も交えて盛んに議論していますが、5年前の『REBORN』計画策定時よりも、社員の熱量や当事者意識の高まりを強く感じます。『REBORN』を通じて弊社は出版流通の維持・改革にも多少の寄与ができたと思っていますが、まだまだ道半ばです。今年も大勢のステークホルダーの皆様と強く連携し、次の時代を目指して一つ一つ手を打っていきます。

（トーハン代表取締役副社長）

2度目の新社屋落成

戸田　利吉郎

古い話で恐縮です。今から67年前の昭和34年11月「少年画報社」の新社屋が落成しました。当時、私は漫画好きの中学2年生。創業者の今井堅氏が「赤胴ブーム」に乗って土地を購入し、水道橋駅近くに5階建のビルを建てたのです。それから長い年月が過ぎました。私が社長を拝命してからも15年になります。社屋にも傷みが増え、地震の影響もあり、新ビルへ向けてGOサインを出しました。正月明けに8階建の白いビルを、是非とも御覧くださいませ……。

（少年画報社取締役社長）

年頭の御挨拶

花村　博文

謹んで新春の御祝詞を申し上げます。

平素より、多くの方々から、矯正施設の被収容者の改善更生や円滑な社会復帰等に御協力いただいておりますこと、厚く御礼申し上げます

読書は、情操を育み、多様な考え方に触れて視野を広げる貴重な機会であり、これは矯正施設の被収容者にとっても同様です。これからも被収容者処遇の充実に努めてまいりますので、引き続き、御理解・御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

（法務省矯正局長）

社会貢献と出版社

大島　光明

73・4％―この数字は「SDGsについて知っている」と回答した若者（中学生から大学生）の割合だ（日本総研）。同じ調査では「社会課題解決に役立ちたい」と答えた若者の割合が5割を超えたという。企業による社会貢献は、さらに重要になっていく。手前味噌になるが、昨年末、『SDGsな仕事』という本を発刊した。これからは、社会課題を解決する知を発信する役割が、ますます出版社にも求められていくことだろう。

（第三文明社代表取締役社長）